

分科会開催報告書

報告日 平成 28年 4月 27日	報告者 田中徳明																														
分科会名 浮雲俳句会	開催テーマ 第99回浮雲俳句会例会																														
開催日時 平成28年 4月 23日 午前 9:30~11:20	開催場所 金沢地区センター小会議室																														
参加人数 “わ”の会会員 男 12名 女 5名 合計 17名 欠席者 1名																															
<p>実施内容</p> <p>第99回例会の出句は兼題 ①天草（諸島） ②晩春の地理 と当季雑詠2句の計4句。 句会は、大川一馬会員による添削披露及び小幡とも女会員による選句の披講の後、北野主宰から天・地・人賞及び特選5句並びに佳作8句の発表と、夫々の句についての論評があった。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 15%;">天賞句</td> <td style="width: 65%;">春泥の団子並べる園児かな</td> <td style="width: 20%;">とも女</td> </tr> <tr> <td>地賞句</td> <td>雪解山背後に据ゑて深志城</td> <td>一馬</td> </tr> <tr> <td>人賞句</td> <td>雪解川沐浴のひと祈りをり</td> <td>あきえ</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">特選句</td> <td>瀬戸瀬戸に天草五橋春霞</td> <td>勝美</td> </tr> <tr> <td>春の宵天草の磁土練り上げり</td> <td>和女</td> </tr> <tr> <td>野島山不二山までも陽炎ひて</td> <td>國眼</td> </tr> <tr> <td>あどけなき靴の避けゆく春の泥</td> <td>十九</td> </tr> <tr> <td></td> <td>干しわかめ茹でて戻るや海の青</td> <td>重九</td> </tr> </table> <p>主宰の指導 ○大景をぶれない表現で捉える印象的な句作りへの工夫・努力を</p> <p>会員選高点句</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 15%;">13点句</td> <td style="width: 65%;">花吹雪そつと背を押す車椅子</td> <td style="width: 20%;">十九</td> </tr> <tr> <td>8点句</td> <td>絵手紙の目刺三匹届きけり</td> <td>重九</td> </tr> <tr> <td>7点句</td> <td>春泥を托僧白き脚絆つけ</td> <td>一清</td> </tr> </table> <p>次回の予定 平成28年5月22日（日）午前 9時30分～午後0時 第100回例会 能見台地区センター 兼題①城ヶ島 ②人事（住まで） 披講 一税</p> <p>その他 ○次回第100回例会は、特に記念行事はおこなわないこと（「十年の歩み」の制作をもって替える。金沢俳句会100回で何らかの記念行事を考える） ○田中十九会員より、「浮雲十年の歩み」の完成を機に、句会世話役を辞任したいとの意向表明があった。</p>		天賞句	春泥の団子並べる園児かな	とも女	地賞句	雪解山背後に据ゑて深志城	一馬	人賞句	雪解川沐浴のひと祈りをり	あきえ	特選句	瀬戸瀬戸に天草五橋春霞	勝美	春の宵天草の磁土練り上げり	和女	野島山不二山までも陽炎ひて	國眼	あどけなき靴の避けゆく春の泥	十九		干しわかめ茹でて戻るや海の青	重九	13点句	花吹雪そつと背を押す車椅子	十九	8点句	絵手紙の目刺三匹届きけり	重九	7点句	春泥を托僧白き脚絆つけ	一清
天賞句	春泥の団子並べる園児かな	とも女																													
地賞句	雪解山背後に据ゑて深志城	一馬																													
人賞句	雪解川沐浴のひと祈りをり	あきえ																													
特選句	瀬戸瀬戸に天草五橋春霞	勝美																													
	春の宵天草の磁土練り上げり	和女																													
	野島山不二山までも陽炎ひて	國眼																													
	あどけなき靴の避けゆく春の泥	十九																													
	干しわかめ茹でて戻るや海の青	重九																													
13点句	花吹雪そつと背を押す車椅子	十九																													
8点句	絵手紙の目刺三匹届きけり	重九																													
7点句	春泥を托僧白き脚絆つけ	一清																													